



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 278

2020/4/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

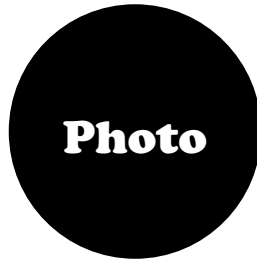
GREEN COLUMN

01. アメリカオニアザミ

02. 写真を撮る



今月の一枚



「カシワの葉」

表紙写真・文／鬼丸和幸

雪の中、枯葉をつけたまま立っていたカシワ。カシワは、落葉広葉樹の仲間ですが、冬でも葉を落とさないのが特徴です。カシワの葉や枝に傷がつくと、バクテリアを排除するために、揮発性物質が発散されます。この殺菌効果を利用して、子どもの日の定番であるカシワ餅は、お餅がカシワの葉で包まれていることで、腐りにくくなっています。また、カシワの葉には、フィトンチッドと呼ばれる香り成分が含まれ、精神を安定させる効果があることが知られています。

Event. 今月のイベント

特別展「写真家 前川貴行の生き物バンザイ！」 ～ 10月25日（日）

プチ工房「和紙の兜おりがみ」 4月17日（金）, 18日（土）

国際博物館の日記念行事「お宝見せます」 4月25日（土）

Information. 参加者募集

プチ工房「和紙の兜おりがみ」

● 4/17（金）, 18（土）10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（300 円）●八重柏誠（美幌博物館）●申込み不要。小学校 3 年生以下は保護者の同伴が必要。

国際博物館の日 記念行事

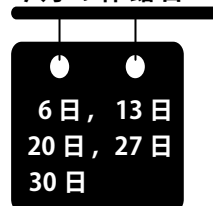
● 4/25（土）9:30-17:00 入館無料

【展示解説】〈午前の部〉10:00 - 12:00, 〈午後の部〉14:00 - 17:00 ●美幌博物館 2F ●美幌博物館 学芸員 ●申込み不要

【体験コーナー・メノウをみがこう！】〈午前の部〉10:00 - 12:00, 〈午後の部〉14:00 - 16:00 ●美幌博物館 2F ●美幌博物館 学芸員 ●申込み不要。定員 30 名になり次第終了。

※上記の各イベントは、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、日時・内容等が変わる可能性があります。必ず、事前に博物館へお問い合わせの上、ご参加ください。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

アメリカ オニアザミ

写真・文／鬼丸和幸



アメリカオニアザミという植物をご存知でしょうか。畑の周りや河川敷などを歩いていて、全身が固いトゲで覆われ、思わず“触れたくない”と感じてしまう植物を見られたことはありませんか…もしかしたら、アメリカオニアザミかもしれません。

アメリカオニアザミは、キク科の植物で、8～9月頃に赤紫色の花をつけ、大きいものでは草丈が1.5mになることもあります。北アメリカからの穀物や牧草に混じって、日本に侵入したと考えられており、北海道～四国まで広く見られます。繁殖力が強く、その土地に元々あった植物の生息場所を占領してしまう可能性があるなどの理由により、環境省・農林水産省が定める「生態系被害防止外来種リスト」の中で、「総合対策外来種」として指定され、特に注意が払われています。アメリカオニアザミは、他のアザミの仲

間に比べ、茎だけではなく、花の周りにも鋭いトゲがあるのが特徴です。

アメリカオニアザミを除去する方法として、①除草剤（デスティニーWDG、ラウンドアップ、サンフロンなど）を使用する～ご自宅の庭など、薬剤をまいても支障が生じない場所では有効です。②スコップで掘り返す～地上部を刈り取っても、根が残っていると、再び生えてきてしまう性質があります。そこで、スコップを使い、植物の周囲を土ごと掘り返して処分します。③花を摘み取る～綿毛で種が飛び、広がっていく性質があります。そのため、花が咲いている時期に、花を摘み取り燃やして処分するか、密閉した袋の中に入れ、可燃ごみとして廃棄します。

野外を出歩かれる際、ちょっと気をつけてみていただければと思います。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

写真を撮る

写真・文／八重柏誠



2月末から続いた休館も3月19日に終わりを告げ、一部制限があるものの通常通り展示室を見ることができるようになりました。

休館中の博物館は、特別展の準備や新年度に向けた準備など、来館者がいなくとも学芸員は大忙しの毎日です。私自身も、この期間を資料整理の時間に当てさせていただきました。資料整理については、令和3年度開催の特別展の担当でもあるので、その準備も兼ねて石器を撮影していました。

今回撮影しているのは1980年代後半から90年代にかけて、町内で発掘調査件数が増えた時代のものです。この頃の撮影と言えば、モノクロフィルムやリバーサルフィルムなどを使うのが一般的でした。私が発掘調査に携わるようになったのが90年代後半から。その頃もフィルムカメラを使っていました。デジタルカメラが発掘調査の

現場で普及し始めたのが2000年代に入ってから。当初は、手軽に取れる記録写真、もしもの時の保険のような扱いでした。それが今では、デジタルカメラが主流となり、フィルムカメラを使う機会は減っています。

デジタルカメラの利点の1つは、撮り直しができることでしょう。フィルムで撮影した場合、現像してみなければ、仕上がりを確認することができません。一方、デジタルカメラは、撮影毎に液晶画面で確認することが可能で、失敗しても撮り直しができます。とは言え、一発勝負のフィルムカメラの方が、自身のスキルアップに繋がるようにも思います。過去にはフィルム丸々1本使い物にならなかったこともありましたが、それも今ではいい経験だと思っています。現像から戻ってきた写真を見るドキドキ感、遠い昔の思い出となりました。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



グリーンレター Vol.276 にて今年は歴史的な少雪
でと書いた途端、大雪に見舞われ、その後も定期的
に雪が降り、結果的には例年並に雪が降った冬
でした。ただ、雪解けは早い。博物館の前の畑は
土が見えています。こんなこと呟くとまた雪が降
るかもしれません。(八重柏)